

令和
2年度

おもりの中学生・高校生による

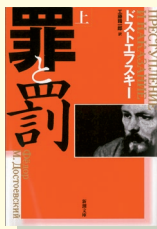
大切なあなたへ

薦める

青春の一冊

優秀作品集

紹介文集



目次

中学生の部

◆最優秀賞◆

『線は、僕を描く』(砥上 裕将/著)
八戸市立江陽中学校 3年 上田 夏希 …… 1

◆優秀賞◆

『カラフル』(森 絵都/著) 青森市立南中学校 3年 西崎 楓 …… 2

『ハリネズミの願い』(トーン・テレヘン/著 長山 さき/訳)
外ヶ浜町立三厩中学校 1年 東 璃咲 …… 2

『西の魔女が死んだ』(梨木 香歩/著)
深浦町立大戸瀬中学校 3年 堀内 美緒 …… 3

『トラペジウム』(高山 一実/著)
弘前市立北辰中学校 2年 石郷岡琴音 …… 3

『新版 生きるヒント2 今日を生きるための12のレッスン』(五木 寛之/著)
八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 朝 望美 …… 4

●奨励賞・審査員賞一覧 …… 4

高校生の部

◆最優秀賞◆

『老人と海』(ヘミングウェイ/著 高見 浩/訳)
青森県立三本木農業高等学校 2年 巴 香乃 …… 5

◆優秀賞◆

『罪と罰』(ドストエフスキー/著 工藤 精一郎/訳)
青森県立青森高等学校 1年 櫻田 藍 …… 6

『蜘蛛の糸・杜子春』(芥川 龍之介/著)
青森県立北斗高等学校 3年 木津 怜巳 …… 6

『ケーキの切れない非行少年たち』(宮口 幸治/著)
青森県立青森聾学校 高等部 2年 三上 真輝 …… 7

『怠けてるのではなく、充電中です。昨日も今日も無気力なあなたのための心の充電法』
(ダンシングスネイル/著 生田 美保/訳)
青森県立八戸商業高等学校 1年 清水 怜奈 …… 7

『博士の愛した数式』(小川 洋子/著)
千葉学園高等学校 3年 加藤 夏望 …… 8

●奨励賞・審査員賞一覧 …… 9

中学生の部 / 最優秀賞

『線は、僕を描く』（砥上 裕將／著）

八戸市立江陽中学校 3年 上田 夏希

「鋭い、切ない線ね。」一筆に、線を描く人の気持ちが表れる水墨画の物語だ。主人公の青山霜介は展覧会で出会った篠田湖山の弟子になる。そこで一人一人違う線の絵に出会い、互いに高め合い、学び合い、日々成長していく。一度描いたら描き直すことのできない水墨画。自分の心が、絵に墨に直結する。

私は、書道をしているときに、一人一人の気持ちがその「字」に表れていると感じる。一筆にその時々を書く人の迷いや勢いや自信が見えてくる。うまくいけば、爽快感や達成感を味わい、それが成長を感じるときでもある。人生の線もそうやって、描いていくものかもしれない。人生の線を丁寧に、思うままに描いていけ。そう、この本が教えてくれた。



講談社

【審査評】

「自分の心が、絵に墨に直結する」水墨画の醍醐味、潔さ、主人公の人間としての成長を的確に捉え、自分の取り組む書道と重ね合わせている。墨が彩る「線」を自分の生き様そのものとして、力強く生きる決意に昇華している秀作である。

中学生の部 / 優秀賞

『カラフル』（森 絵都／著）

青森市立南中学校 3年 西崎 楓

「人間は一色だけじゃなくいろんな色を持ってるんだ。持ってていいんだ。」この言葉は私が友達との人間関係で悩んでいた時に、勇気もらった言葉だ。

私は他人を見た目や自分の損得で判断しがちで、一色の暗い色だと決めつけていたのだろう。そんな私にこの本は、もう一度自分と真剣に向き合い、正直に素直に生きることを教えてくれた。

落ち込んだり、悩みを抱えている人に特に読んでほしい一冊だ。ページを開くと、いつもは当然だと思っていたことへの感謝、今まで見ようとしていなかった綺麗な色、カラフルな部分までもが見えてくるかもしれない。そんなあなたへ薦めたい一冊である。



文春文庫

【審査評】 「人間のいろんな色」の存在に気付かされ、他人を見て判断することは、実は、もう一度自分と向き合うきっかけであるという境地に至っているところが見事である。視野の広がり、人間的成長、期待を感じさせる良品である。

『ハリネズミの願い』（トーン・テレヘン／著 長山 さき／訳）

外ヶ浜町立三厩中学校 1年 東 璃咲

お話に登場するハリネズミは、とても臆病で他の動物とうまく付き合うことができません。勇気を出し手紙を送ろうとしますが、それさえもためらってしまいます。ここに私は深く共感しました。私も人と関わるのが怖くなることがあります。そのため、自分に自信を持つことができませんでした。しかし、このお話には、そんな弱い部分がある存在を救ってくれる温かさや優しさがあります。考えてみると欠点がない人などいません。その欠点をどう受け止め、前へ進んでいくのか。それが大切なのだということにこの本は気づかせてくれました。自信を持ってなくなった時、誰かに励ましてもらいたい時、そんな時にぜひ手にとってほしい一冊です。



新潮社刊

【審査評】 「欠点がない人などいない」、作品からそんな力強いメッセージを受け取っている。ハリネズミの臆病さは、実は温かさや優しさにつながる。自信のなさも自分の良さにつながる。次の一歩を踏み出すヒントとする良品である。



『西の魔女が死んだ』（梨木 香歩／著）

深浦町立大戸瀬中学校 3年 堀内 美緒

唐突に逃げたいと思うことがある。

中学三年生の私は今、多感な時期で、精神状態もぐらぐらで安定していない。そんな私に一冊の本が巡ってきた。この本は、心と身体に問題を抱え学校に通えなくなった中学一年生のまいの心の成長していく話だ。主人公のまいが、私と同じ位の年齢であることもあり、親や友達からの何気ない言葉に一喜一憂したり、自分を取り巻く環境に嫌気がさすところに共感することができた。私はこの本に登場する「アイ・ノウ」という言葉を読むたびに嬉しい気持ちになった。私はあなたを理解しているよ。と言われていたようで幸せだった。悩みを抱えている人や頑張りすぎている人に読んでほしい。励ましてくれる。



新潮文庫刊

【審査評】 傷つきやすく、何かから逃げたいと思いがちな主人公と自分を重ねている。「アイ・ノウ」という魔法の言葉。自分を取り巻く環境の中で、どう生きていくかは、自分次第なのだという、成長を感じさせる良品である。

『トラペジウム』（高山 一実／著）

弘前市立北辰中学校 2年 石郷岡 琴音

私は周りの反応ばかり気にしている。だから学校でも自分からは発表しないし、一日の中で会話する人も2人か3人だ。私は勇気が無く、自分を変えられなかった。その時に、この作品に出会い、心を動かされた。

「私は、状況が変わるのを待っていた。しかしそんな日など待っていても訪れないのではないか。」この文が心に突きささった。大切なことは「変わりたい」と願い、行動することだとこの作品が教えてくれた。

主人公の東ゆうは会うことに対して怯えなかった。逆にチャンスをつかみにいった。私のように自分を変えたいと思っている人、そうでない人も一度読んでみてほしい。きっと人に出会うことに前向きになれるはずだ。



KADOKAWA / 角川文庫

【審査評】 大切なことは「変わりたい」と願い、行動すること。自分の中のもう一人の自分、自分が思うほど弱くない自分の存在に、^{じし}滲み出るような歓喜が感じられる。作品と共に成長していくという決意溢れる良品である。

『新版 生きるヒント2 今日を生きるための12のレッスン』(五木 寛之/著)

八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 朝 望美

何事もしっかりと、成果を上げていくことが一番良いとされている世の中。今は特に新型コロナウイルスによって多くの人々が疲弊感に包まれている。そんな世の中を生きている私達は、マイナスな言葉を多く出している。学校が休校となり、生活習慣が乱れるなど一見ネガティブなことを一転し、プラスにして捉えるのが五木流の考え方だ。私は、学校行事がなくなって落ち込んでいたが、これはこれからの人生の中でスパイスのような存在になるのかもしれないと前向きに考えられるようになった。

今日を生きるため、明日に結び付けるための一冊だ。ちょっとしたヒントを知るだけで、私達の生活は実りの多いものとなるだろう。



集英社文庫

【審査評】 新型コロナ禍と騒がれる現状も、実は、その多くはネガティブ、マイナスとも言える言葉に大きく左右されている。長い人生を俯瞰するとスパイスに過ぎない。ピンチをチャンスに、力強さが伝わる良品である。

中学生の部 / 奨励賞一覧

- ◇ 『雨の降る日は学校に行かない』(相沢 沙呼/著) 青森市立造道中学校 3年 柴田里美香
- ◇ 『よるのぼけもの』(住野 よる/著) 青森市立甲田中学校 1年 齋藤 子絵
- ◇ 『私は私のままで生きることにした』(キム・スヒョン/著 吉川 南/訳) 深浦町立大戸瀬中学校 3年 吉田 彩菜
- ◇ 『風に恋う』(額賀 滯/著) 弘前市立北辰中学校 3年 工藤芽以花
- ◇ 『私は私のままで生きることにした』(キム・スヒョン/著 吉川 南/訳) むつ市立大平中学校 2年 岡本 紗樹
- ◇ 『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』(マララ・ユスフザイ/著 パトリシア・マコーミック/著 道傳 愛子/訳) 八戸市立湊中学校 2年 沢尻 桃花
- ◇ 『この川のおこうに君がいる』(濱野 京子/著) 八戸市立是川中学校 3年 木村 莉緒
- ◇ 『表参道高校合唱部! 10000回だめで へとへとになっても』(櫻井 剛/脚本 桑畑 絹子/著) 八戸市立是川中学校 3年 関川 陽菜
- ◇ 『また、同じ夢を見ていた』(住野 よる/著) 八戸市立江陽中学校 1年 佐々木陽奏
- ◇ 『説明がつかない現象と私が生徒会に入った説明』(葵 日向子・木爾 チレン・狐塚 冬里/著) 八戸市立北稜中学校 1年 藤田 茉那

中学生の部 / 審査員賞一覧

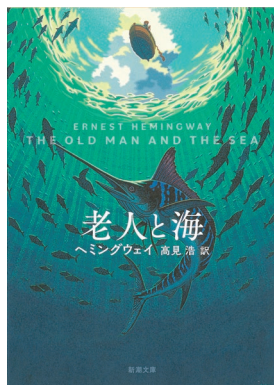
- ◇ 『明日の世界が君に優しくありますように』(汐見 夏衛/著) 鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 3年 神 美憂
- ◇ 『星やどりの声』(朝井 リョウ/著) 八戸市立明治中学校 3年 浪岡 望月
- ◇ 『ライオンのおやつ』(小川 糸/著) 八戸市立大館中学校 1年 赤坂乃々夏

高校生の部 / 最優秀賞

『老人と海』（ヘミングウェイ／著 高見 浩／訳）

青森県立三本木農業高等学校 2年 巴 香乃

読み終わった後、自分の手が汗で濡れていることに気がついた。サンチアゴとカジキの長きにわたる死闘。どちらが勝ってもおかしくはなかった。船よりも巨大で力のあるカジキに対するは痩せて体が筋張っている老人。誰が見ても結果は分かっているはずなのに、生き生きとした彼の目に希望しか抱けなかった。何があっても絶対に諦めない。何度も自分を奮い立たせ、立ち上がるその姿から血が沸き立つような強い衝動にかられた。たとえ体がどんなにぼろぼろになろうとも心まで虚しくなる必要はない。自分が本当に納得するまで挑み続けろ。そう言われているようだった。この作品は、きっと誰が読んでも心打たれることだろう。一度は読んでほしい一冊だ。



新潮文庫刊

【審査評】

失意の日々が続く中でも、希望を捨てず明日を信じ、目の前の難局に立ち向かう人間の話である。新型コロナウイルスの脅威に立ち向かう現代社会に一つの示唆を与える作品であろう。「人間は負けるように造られてはいないんだ」この一言に出会うだけでも未来を創造する若者には読む価値があると信じている。

高校生の部 / 優秀賞

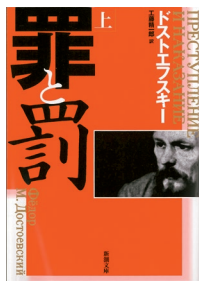
『罪と罰』（ドストエフスキー／著 工藤 精一郎／訳）

青森県立青森高等学校 1年 櫻田 藍

人間は理論に基づいていれば、罪を犯してもよいのだろうか。主人公はある思想をもとに殺人を犯すのだが、それによって引き起こされる重い罰の意識と葛藤、耐え難い孤独感に苦しむ。全体として陰鬱な雰囲気のある物語である。しかし、家族愛、友情、慈愛の描写に誰もが必ず心を打たれるであろう。

この作品に出会えたから、「罪」について考えることができた。自分の信念に基づいた理論があったとしても、罪を犯すということは、自分を信じてくれている人、愛してくれている人を悲しませ、裏切ることになってしまう。それが最も大きな罪だろう。

この作品を読むことは、きっと人生の宝になる。一度手にしてみてもう一度読んでほしい本です。



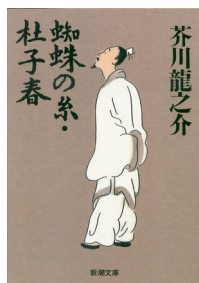
新潮文庫刊

【審査評】 この作品にいつ出会うかはとても大事な問題である。「罪」のおそろしさはそれを犯した本人が「人」であればこそ、自らをその罪によって蝕んでいくものである。日本と世界の未来を創造するにふさわしい「人」としての在り方・生き方を学ぶ上でも、櫻田さんが高校1年生でこの作品と出会えたことは幸いだと思う。

『蜘蛛の糸・杜子春』（芥川 龍之介／著）

青森県立北斗高等学校 3年 木津 怜巳

あなたは「韃陀多」という男を知っていますか。この物語は、地獄と極楽が舞台となっているお話です。蜘蛛の糸を初めて読んだのは小学生のときでした。当時の私は、悪いことをした人に罰が与えられるのは当然だと思っていました。しかし、高校生になって読み返してみると、今の現代社会のようだと感じました。私達は大人になるにつれ、無意識のうちに人を傷つけます。しかし、それは与えられた条件の中で、必死に生きようとする人間の醜さや弱さなどではないでしょうか。必ずしも、一方が正しくて、一方が間違っているわけではありません。その世界観を美しく作者は表現していると思います。だからこそ、今の私達にもう一度読んで欲しい本です。



新潮文庫刊

【審査評】 幼いころから多くの人を読む作品であるが、読み返し、自分の経験と発達段階に合わせて登場人物や作品の主題を改めて解釈し直すことはとても意義のあることである。感じ方、考え方の違いそのものが自分自身の成長であり、作品に表れるものが多く「見える」ようになると、自分と世界との位置関係を正しく知ることができる。



『ケーキの切れない非行少年たち』(宮口 幸治/著)

青森県立青森聾学校 高等部2年 三上 真輝

この本を読んで、いじめや他人と話すことが不安などの苦しみを抱える障がい者を助けようとしている宮口さんの姿に心を打たれた。

私も耳が聴こえにくく、体が人よりも少し小さい。過去に他人からのジロジロとした視線を感じることも多く、他人と話すことが怖い時があった。だから、私は、この人たちの気持ちがわかる気がする。しかし、私は、今、他人と話すことが大好きだ。それは、周りの人たちが私を理解してくれたからだと思う。私と彼らの違いは、身近に「理解してくれる人」がいるか、なのではないだろうか。

みんなが宮口さんのようになってほしいとは思わない。しかし、この本を読んで、少しでも理解者になってくれれば、私は嬉しい。



新潮新書刊

【審査評】 生活環境に適応しづらく、「困っている子」は意外に多い。それはその子らが抱える本当の問題に周囲がなかなか気づくことができないからである。しかも「困っている子」は実は自分自身だったり、自分の周囲に少なからず存在していたりする。現代社会に生きる者として、三上君の薦めにしたいが、読むべき一冊と考える。

『怠けてるのではなく、充電中です。昨日も今日も無気力なあなたのための心の充電法』(ダンジンスネイル/著 生田 美保/訳)

青森県立八戸商業高等学校 1年 清水 怜奈

「私にはネガティブな考えが存在する。でも、違う考え方だってできる」この言葉が私の考え方を変えてくれた。私は人から受ける言葉に傷つきやすい。いつも悪い方に考えてしまう。でもポジティブに考えろと言われても簡単にはできない。こんな性格は直しようがないと思っていた。そんな時にこの言葉と出会った。無理にポジティブではなくてもいい。受け入れる程度でいい。完全に捨てなくたっていい。自分が欲しかった、知りたかったことが書かれていた。作者も同じ体験をしているからこそ、説得力があり、心に響いた。今、生きているなかで苦しく、憂鬱に感じることは多い。そんな心の悩みを解消してくれる本なので、是非読んでもらいたい。



CCCメディアハウス

【審査評】 韓国発のエッセイ。日本も韓国も現代社会を生きるには、個人の高い生活スキルと耐性が求められる。当然ストレスの多い日常となりがちだが、そんな時に読んでみたい作品である。日韓関係の難しい時代ではあるが、表現を通じた相互理解入門編としてもいかがだろうか。

『博士の愛した数式』 (小川 洋子／著)

千葉学園高等学校 3年 加藤 夏望

交通事故の後遺症で記憶が80分しかもたない元大学の数学博士と、そこに派遣された家政婦さんとその息子の交流を描いた物語。それぞれが思いやりをもって、日々を送る3人の時間が愛しく、優しい気持ちになれる。一つのことを心の底から愛し抜くとはどういうことなのかを、博士の生き方を通して教えてくれる。この作品を読まなければ、“0”(ゼロ)という数字の美しさにきっと今も気付いていなかったと思う。数学の授業中に“0”がでてくると、この本を思い出す。他の何気ない数字にも意味が隠されているのではとってしまう。読み終わると心にじんわり残るものを感じる、とても素敵な物語。



【審査評】 2003年発行、第1回本屋大賞・第55回読売文学賞受賞。書き手と売り手の二つの側面から最も価値のあると認められた作品である。家政婦さんが出会った341は二人のミスタータイガース村山11と掛布31の合成数である。何気ない数字にも確かに大きな意味が隠されている。加藤さん指摘のとおりである。



高校生の部 / 奨励賞一覧

- ◇『海賊とよばれた男』（百田 尚樹／著） 青森県立青森高等学校 1年 小倉 匡敬
- ◇『また、同じ夢を見ていた』（住野 よる／著）
青森県立青森高等学校 1年 横山 心音
- ◇『羊と鋼の森』（宮下 奈都／著） 青森県立青森西高等学校 1年 高坂 奈央
- ◇『夢を跳ぶ パラリンピック・アスリートの挑戦』（佐藤 真海／著）
青森県立青森西高等学校 2年 伊藤 源大
- ◇『いなくなれ、群青』（河野 裕／著） 青森県立青森工業高等学校 1年 竹内美唯菜
- ◇『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（ブレイディみかこ／著）
青森県立青森工業高等学校 1年 溝江 香波
- ◇『カケラ』（湊 かなえ／著） 青森県立北斗高等学校 1年 田澤 野愛
- ◇『流星の絆』（東野 圭吾／著） 青森県立黒石高等学校 1年 阿保はるね
- ◇『とんび』（重松 清／著） 青森県立六戸高等学校 2年 小山田和叶
- ◇『モモ』（ミヒヤエル・エンデ／著 大島 かおり／訳）
青森県立三本木農業高等学校 3年 牟田 柊香

高校生の部 / 審査員賞一覧

- ◇『女性と子どもの貧困 社会から孤立した人々を追った』（樋田 敦子／著）
青森県立弘前南高等学校 3年 小野 美咲
- ◇『傭兵団の料理番』（川井 昂／著） 千葉学園高等学校 1年 榎本 恋翼
- ◇『か「」く「」し「」ご「」と「』（住野 よる／著）
八戸聖ウルスラ学院高等学校 2年 谷川 美佑



中学生・高校生の皆さんへ

中学生・高校生の皆さん、読書をしていますか。

皆さんの「お薦めの一冊」は何ですか。

青森県教育委員会では、皆さんにより本に親んでもらいたいとの思いから、県内の中学生・高校生を対象として、仲間や友だちなどへのお薦めの本の紹介文（200～300字）を募集しました。

今年度もたくさんの応募（[中学生の部] 1,501点、[高校生の部] 3,571点）をいただき、その全ての作品から、皆さんの「お薦めの一冊」への思いが感じられました。

この作品集では、応募作品の中から、厳正な審査により最優秀賞・優秀賞に選ばれた12作品を紹介しています。また、奨励賞・審査員賞を含む全ての優秀作品については、県教育委員会のホームページで読むことができます。

これらの紹介文を読んで、実際に図書館や書店で本を手にとって読んでみてください。そして、ぜひ、皆さんそれぞれのお薦めの本を仲間や友だちどうしで紹介し合ってみてください。

心に残る本との出会いが、皆さんがこれからの人生をより深く生きるための力となることを願っています。

青森県 青春の一冊

検索



【 審査員 】

青森県立六戸高等学校	校 長	吉田 繁徳
青森市立南中学校	校 長	高橋 光夫
株式会社成田本店	取締役会長	成田 耕造
青森県読書団体連絡協議会	副 会 長	前田 敏子
八戸学院第二ののめ幼稚園	園 長	茂木 典子
青森県教育庁生涯学習課	課 長	葛西 浩一

【 発 行 】

青森県教育庁生涯学習課企画振興グループ

〒030-8540 青森市長島1-1-1

Tel 017-734-9888

Fax 017-734-8272

発行日 令和3年2月